

第2回南知多町総合計画審議会 議事概要

日時 令和2年7月20日(月)
15:00~17:30
場所 南知多町役場 大会議室

出席委員

会長	千頭 聡	日本福祉大学 国際福祉開発学部教授
副会長	平山 康雄	区長連合会代表
	山本 比呂志	あいち知多農業協同組合代表
	宮本 邦彦	南知多プラスチック工業団地協同組合代表
	鈴木 甚八	南知多町観光協会代表
	辻 真理子	南知多町まちづくり協議会代表
	澤田 晟	自主防災代表
	池戸 義久	教育委員代表
	伊藤 恵子	男女共同参画人材育成セミナー修了者
	中村 修見	民生委員・児童委員代表
	山下 かず代	社会福祉協議会代表
	齋藤 慎也	ウミひとココロ代表
	大塚 智之	金融機関代表
	岡田 濃	愛知県市町村課
	山本 多恵	一般公募
	秦 由岐穂	一般公募
	山本 奈緒	一般公募

欠席委員

	桂木 繁功	南知多水産振興会代表
	酒井 友之	商工会代表
	辻 和幸	知多半島ケーブルネットワーク代表

傍聴席

3人

議事次第

あいさつ

議 題

(1) 第1回審議会意見の回答及び総合計画素案への反映について

- (2) 住民意識調査結果及び基本施策の数値目標について
- (3) 住民会議及び概要版の作成方針について
- (4) その他
その他

議題概要

議題1 第1回審議会意見の回答及び総合計画素案への反映について

【事務局の主な説明】

(素案の修正状況について)

- ・ 11の施策について変更を行った。
- ・ 資料2 前回審議会後に変更した部分は黄色ハイライト、資料3素案に対して変更した部分の新旧対照表をお示しした。
- ・ 街づくりの将来イメージ・基本理念「絆、選ばれる理由がある町」は今更感がある、封鎖的・閉鎖的なイメージがあるという意見をいただいたが、「絆」という言葉については、地域を超えた絆としてとらえ、残す方向。作業部会では役場としては地縁関係・近所付き合いということではなく、自治体間、都道府県間、世界とのつながり、地域を超えた絆として捉えている。産業間、民間と行政、民間と住民、次のステップへ進めるために「絆」は必要であるとの趣旨を説明。
- ・ 3つの重点施策と3つの基本目標を定めた。これに対して優先順位の順番が違い、違和感を覚えるという意見があったため、目標記載の順番を入れ替え、重点施策のほうに合わせひとづくり、仕事づくり、まちづくりという順番になるよう、基本目標の順番を変更した。
- ・ 具体的な事業提案については多くの意見を頂いた。総合計画の毎年見直す3か年計画、アクションプラン部分に反映をしていく想定のため、総合計画には反映しないと考えている。

(人口ビジョンについて)

- ・ 人口目標についてももう少し資料があるという意見に関して、令和元年度第3回作業部会の資料を追加した。
- ・ 新人口ビジョンでは男女別、年齢別の生残率は直近の社人研の推計を使用。男女別、年齢別の移動率は直近の社人研の移動率のマイナス部分のみ半分に抑制するという事で推計している。子供女性比、0歳～4歳の性別比は社人研の数値をそのまま使用。大きく変えたのは合計特殊出生率 2025年 1.3、2030年 1.5、2040年 1.8、それ以降は 1.8として推計したものを総合計画の人口ビジョンとして採った。
- ・ 町全体のものしか載っていなかったため、地区別、出生率の推移がどのように推移しているのかを住民に把握して頂けるよう、資料を添付した。

- ・直近の社人研推計で、平成 27 年国勢調査に基づく社人研推計値において、2015 年には 18,707 人であった人口が、2050 年には 7488 人に減る。0～14 歳は 2050 年 507 人を 15 で割ると 1 学年当たり 33.8 人になっている推計。令和 30 年に 1 万人を目指す場合の推計では、(令和 32 年) 2050 年に 9,497 人まで落ち込む。0～14 歳 1,038 人。15 学年で割ると 1 学年当たり 69.2 人になる。

【委員の主な意見】

(委員 秦 由岐穂)

- ・資料 119 頁 多様性を認める、働き方、様々な方が活躍できるという部分について、計画の中に目指すべき姿、指標が総合計画の中にある。政府の 2020 年までにリーダースhipをとる女性を 30%増やそうという目標があるが、そのような、このくらい増やしましょう、という指標があるとよい。
- ・兵庫県豊岡市では回復率という数値を採用している。女性が返ってくるように子育て支援に力を入れた。こうした転入について指標が作ることができるのではないか。
- ・例えば、出て行った人の U ターン比率が分かれば、帰ってくる人は女性が多いのか、男性が多いのかによって支援の方法が見えてくる。指標があることで、若者に戻ってきてほしいのであればどのような対策をすればよいか分かるだろう。

(委員 中村 修見)

- ・ページ構成があまり変わっていない。こういう理由で強調、達成したいということを考える文章構成にして頂きたい。
- ・文章表現や管理指標についても、具体的な課題で指標を設定してほしい。
- ・地域共生について謳っているが具体的にどんな人かわからない。老若男女、いろいろな世代がいるが、そのような細かい要素があるとよい。障がい者、LGBT などへの配慮、外国人実習生なども地域住民なので、具体的な記載が要るのではないか。

(委員 澤田 晟)

- ・計画を見ても若者と高齢者、それぞれの人がある方向で動いたらよいか分からない。
- ・高齢者の就労促進とあるが、何歳まで働けばいいのか。どちらかという若者にもっといい環境を作ってあげたい。
- ・数値だけでなく実感を図るべきではないか。満足度も点数化するのが重要なのではなく、上がっているか下がっているかが重要なのではないか。

(委員 山下 かず代)

- ・数値に現れないことも大事なのではないか。
- ・高齢者の持っている伝統技術等を残していくことが必要。計画の中にそういったことを盛り込んでいくべきではないか。
- ・外の考え方や取組をそのまま取り入れるのではなく、南知多らしいものを考えればよいのでは。地方のよさもある。

(委員 山本 多恵)

- ・少子高齢化をどうしていくのかが一番の問題。大学などで、子どもたちはみんな出て行ってしまいが、戻ってきてもらえるような教育が必要(子どもたちの郷土愛をはぐくむことが必要)。
- ・若者にも高齢者にも住みやすい町にしていくことが必要。

(委員 山本 奈緒)

- ・都会の便利さについて「固定概念」で片づけてはいけないのではないか。実際に不便だから都会に行ってしまうのでは。

(会長 千頭 聡)

- ・次回審議会では、地区ごとの人口、転出転入数、生産年齢人口、高齢化率等を確認し、総合計画に載せるかどうか議論する。

【事務局】

- ・総合計画見直しにあたり、分かり易い計画、使っていく計画にするにはどうすればよいのかということを考えている。
- ・素案は無駄をそぎ落とした計画にさせてもらっている。具体的な事業の進め方は素案から省き、アクションプランに載せる予定でいる。基本施策の方にも関連する55の個別計画をまとめて掲載している。個別計画は必ずしも総合計画に結びついているわけではないが、総合計画を見ると大まかなあらすじが、個別のあらすじは個別計画に、何をするのかはアクションプランに書いてあるという形としていきたい。
- ・住民の方が意見することができる総合計画を目指していきたいと考えている。
- ・自分たちが何をやったらいいか分からないという意見が残っているので、自分としてどのように基本施策に参画することができるのかを分かりやすくできるよう検討していきたい。

議題 2 住民意識調査結果及び基本施策の数値目標について

【事務局からの主な説明】

- ・資料 4、108 頁 意識調査を行うことは事前の審議会で検討すべき、また、意識調査にも今回の資料に書いてあることをお示しすべきであったという意見を頂き、反省している。
- ・100 名のモニター様に 4 つの指標に対して意見を頂く調査は初めての試みだった。
- ・町政に興味を持ってくださっている方に回答頂くのは、結果にどのように影響するのか分からなかった。事前に公表してから意識調査を行った方がよいが、90 ポイントを超える高得点の場合に見直しをしなければいけないのではということを経験したため、意識調査前にこういった場でお示ししてからアンケートに答えて頂くという流れにできなかった。
- ・意識調査の結果を踏まえて KPI 算出したものを計画素案の基本施策ごとに設定した。
- ・21 の基本施策に対する満足度の出し方を説明した。
- ・1 つの施策に対して認知度、満足度、貢献度、重要度の指標について調査した。
- ・総合計画に反映したのは 100 名のモニターの回答だけである。
- ・「満足」という、ネガティブな回答（1～3）をしていない方の数をもってポイントを算出している。
- ・人づくり指標、町づくり指標、仕事づくり指標では、「重要」でないとネガティブ回答した方も含めてポイントを算出。合計 100 になるように、認知度 0.3、満足度 0.4、貢献度 0.3 の係数をかけて合計 100 になるよう算出した。
- ・行財政マネジメントについては本庁の正職員へのアンケート調査から実感している職員の割合を測り、計画に反映した。
- ・4 年後の目標値は現状ポイント数の 5% 上昇としたが、第 3 回審議会までに適正数値を検討し設定する予定である。
- ・分析前ではあるが、住民モニターおよび全職員の回答は資料 7 にまとめている。相対的に職員の回答が甘い結果（ポジティブ）だが、「とても満足」回答は住民に多く、職員は「ある程度満足」が多い。
- ・今回実施した住民意識調査の結果からどのように施策を進めていかなければならないか、どのように目標指標を定めていくことが最適なのか考えていかなければならない。
- ・満足度が高いが、満足していない施策については特に分析を進め、目標設定について第 3 回審議会で説明できるようにしたいと考えている。

【審議委員の主な意見】

(委員 伊藤 恵子)

- ・住民の方が満足していない項目について、どのようなところに満足していないのか、自由記述等で理由がわかれば知りたい。

【事務局】

- ・自由記述の意見はさまざまであるが、集計前であるためすぐに回答できる内容ではないため、今後住民に公表できるよう集計を進めていきたい。

(委員 澤田 晟)

- ・住民満足度が低いものをどう受け止めるか。
- ・こういったことを分析していくことが計画の見直しになると思う。

(平山副会長)

- ・満足度を上げていくためには施策として何をやっていくべきかということ。
総合計画との関わりやつながりを理解すると、満足度というのは総合計画の作り方で、実際はアクションプランで、その中で何をやっていけば満足度が上がっていくのかということではないか。

(委員 中村 修見)

- ・パーセンテージなら分かり易いが、ポイントだと実感がわきづらい。
- ・世代別ではどんな結果だったかなどを知りたい。

(委員 秦 由岐穂)

- ・点数についても、回答番号1～3の(ポジティブ)回答についてもグラデーションをつけるべきでは。今のKPIの算出方法ではグラデーションが計画に反映されない。
- ・満足度がより上がることが重要なので、グラデーションでわかる形にしてほしい。

【事務局】

- ・総合計画に載せるのは満足度だけだが、不満足に思っていない方は満足に入れている。今までは少しでも不満足に思う方の要望を拾ってきたが、今回は本当に困っているという方を助けるため、少しでも満足に思う方は思い切って満足に分類した。
- ・前回は満足度しか聞いておらず、今回は認知度、重要度の質問も増やし、不満足の方に役場や民間の取り組みに気づいてもらうことを狙いとした。そういった事業に参画されている方は一般的に満足度が高いと聞いているため、各設問の中に貢献度を設けた。
- ・農業に関する設問などでは職員と住民の間のポイントに乖離がある。KPIをどうしていくか、不満足についてどのような意見が言われているのか、役場の作業部会で分析していく。周知が足りないのか、役場が独りよがりな事業をやって、住民の方に参画機会を与えていないかなどを分析していく。
- ・ネガティブを減らしていくアンケートの採り方、施策の進め方は初めての試みであるが、柔軟に見直していけるような総合計画の組み立てを考えている。

(委員 池戸 義久)

- ・回答番号3はネガティブ評価に入るのではないかな？
- ・回答番号2を1にするようなところはどうやって表現するか。

【事務局】

- ・回答番号1と2を「満足」、3と4を「不満足」とすること、中間の「どちらでもない」も選択肢として考えたが、集計上困難となることが想定されたため削除した。トーマツのアドバイスで人間心理上、2つに割り切れない指標にした方がいいのではということだったので、選択肢を二分しないで1～3の「満足」、4の「不満足」にし、「まったく満足していない」人に少しでも満足して頂ける施策が必要という考えのもとアンケートを行った。
- ・不満を抱える方をどう減らしていくのかということに重きを置いている。

(委員 斎藤 慎也)

- ・KPIとKGIがつながっていないのではないかな。具体的に描かれていると分かり易い。
- ・KPIとKGIをツリー状に整理してほしい。
- ・ダイジェスト版(概要版)のときにこれが説明できないと厳しいのでは。

【事務局】

- ・KGIを先に定め、基本目標・施策を定め、ふさわしい指標を探したところで、アンケートで満足度調査を行う。基本目標については満足度以外に認知度、重要度も数値化し、KPIとして定めた。長い目で見れば満足度を上げていくことで「選ばれる理由のある町、絆のある町」となり、子育て世代の移住・定住が促進されてくるだろうというロジックツリーとして考えている。
- ・KPIがKGIにつながるロジックの説明方法についてよい意見があればお聞きしたい。

(千頭会長)

- ・「少し満足」が「満足」に上がってもKPIにつながらないが、施策によっては「満足」が増えることが大切である。KPIの算出のためだけでなく、住民意識調査を多面的に使っていくことが重要で、今後はモニターアンケートの使い方の説明が必要ではないかな。

(委員 秦 由岐穂)

- ・このKPIは満足度を向上させるのではなく、満足していない(切迫した)ところに予算を使っていく考え方である。この考え方について、住民に説明、合意を得ながらやっていく必要があるのでは。

議題3 住民会議及び概要版の作成方針について

【事務局の主な説明】

- ・住民会議及び概要版の作成方針について資料に基づき説明した。
- ・コロナの影響で6月の住民会議を見送り、今後の開催方法は検討中である。
- ・子供からお年寄りまで総合計画で取り組みを知ってもらい、計画に住民意見を反映する仕組みについて理解を深めて頂くために概要版を作成する。
- ・住民会議により、素案のレイアウトや使い方について住民の意見を聴く予定をしている。住民会議は5地区で実施する。会議の案内チラシ案では、第1部で総合計画を説明し、第2部で概要版の素案を使って計画の使い方などについて意見交換をすること予定している。
- ・対象者は中学生の親子と住民意識調査モニター。アンケートがどのように活かされていくのかを知る機会として参加して頂きたいと考えている。
- ・概要版のコンセプトは中学生が読んで理解できる、多くの住民の手に取ってもらえるようなレイアウト。事務局では他自治体の事例を参考に構成を検討中だが、素案作成に苦慮しており、アイデアや意見を募集している。
- ・本日の審議会意見を踏まえ7月22日の作業部会で住民会議開催方針および概要版作成方針を検討する。サンプル完成後、審議会委員へ提示し、意見収集を行い、9月23日の第3回審議会において、住民会議の結果を報告する。事務局から中学校へ問い合わせを行い、8月から参加者募集を行う予定をしている。
- ・事務局案では「使う」総合計画ということで、PDCAサイクルのページなどについて意見交換してもらおう想定。現状のキャッチコピーが総合計画と合致していないという意見があるため、意見交換会で総合計画のキャッチコピーについても考えてもらう。各地区5つ想定。
- ・区長、産業団体代表者、PTA会長などにも参加して頂きたいが、感染症対策のため動画配信も検討していく。
- ・「使う」総合計画にするため、意見交換会のテーマと概要版のレイアウトについて審議会で意見を頂きたい。

【審議委員の主な意見】

(委員 大塚 智之)

- ・グループワーク等により意見を頂くなら、活発な意見交換をしてもらうために同じようなグループ(中学生・親等)で分けて行う方が良い。

(委員 池戸 義久)

- ・当日に計画内容を聞いて理解することは難しいため、住民説明会の参加者が決まっているなら事前の資料配布が望ましいのでは。
- ・中学生の数はどのくらいを見込んでいるのか。ターゲットにするなら事前に中学校宛に資料送付してはどうか。

【事務局】

- ・各中学校に親子で数組出して頂けるよう打診していく。授業の中でも総合計画について検討してもらえるよう協議していく。
- ・資料の事前配布は望ましい。使える概要版素案が完成したら対応していきたい。

(委員 斎藤 慎也)

- ・中学生は大人に混じっての発言が難しいため、中学生だけのグループを組むようにしたほうが良いのではないか。
- ・完成したら概要版はどのように配布・設置する予定か。

【事務局】

- ・令和3年4月に全世帯に概要版を配布する予定。総合計画本体の配布は今のところ予定していない。

(委員 秦 由岐穂)

- ・ヒアリングを事前に行い、その内容を踏まえて住民会議を行った方がスムーズではないか。
- ・内容を知って頂き、どう思うかを述べ、使うことを住民説明会で話すのを(ワールドカフェ)二時間でやると消化不良ではないか。

(委員 池戸 義久)

- ・小学校の統合アンケート調査結果半数以上が統合に賛成している。

(千頭会長)

- ・貢献度に関していえば、住民会議でも私は何ができるかということをお聴く時間を作ってほしい

(委員 中村 修見)

- ・町づくりの基本目標について、企業誘致に苦戦していることもあり、しごとづくりよりも、しごとから生み出される賑わいに重点を置いた方がこの地域に合っているのでは。

議題4 その他

議題なし

【事務局の主な説明】

- ・次回審議会の日程についてアナウンス（次回は9月23日午後3時～5時）

以上